

教師用 指導案

1. 授業名

テーマ 東京 2020 スペシャル

授 業 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

2. 授業の目標

- ・国立競技場の施設・設備の様子や建設までの過程を知ることを通して、東京 2020 パラリンピックのレガシー（未来に受け継いでいくもの）について学び、共生社会の実現に向けて人々の意識や態度が変わりはじめ、共生社会を目指す動きが広まってきていることもレガシーであることを知る。
- ・共生社会の実現に欠かせないものの見方や考え方を理解し、未来に継承していくために今後自分にどのようなことができるのかを考える。

3. 本時の位置づけ

- ・道徳の「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」などの視点における事例学習として活用。
 - ・総合的な学習の時間の「福祉・健康」「他者や社会とのかかわりに関すること」の授業などでの活用。
 - ・人権教育としての活用。
- ※その他、学級活動や学年集会などの時間を活用してもよい。

4. 指導上の留意点、工夫点

- ・東京 2020 大会のレガシーの 1 つである国立競技場は「誰もが気持ちよくスポーツを楽しめる場所」、ひいては「誰もが自分らしくいられる社会」を体現しているといえる施設であるが、それは設計の段階から、様々な人たちの人権に配慮した工夫があったから可能になったことに気付かせたい。
- ・「より多くの人にとって気持ちよく過ごせる場所」をつくるために不可欠な、2 つのプロセスを理解させたい。1 つめは、立場が異なる人たちの声を集めること。2 つめは、その意見を集約する上で相反する見解がある場合は、対話を通してお互いの立場に対する理解を深め、よりよい案を検討していくこと。自分たちの経験とも重ね合わせて考えられるとよい。
- ・「障害のある人は大変（かわいそう）だから優しくしたい」といった発言も予想されるが、障害がある人が大変な思いをするのは、「社会が、障害のある人を考慮して設計されていないことに起因している」という考えを理解させたい。その上で、環境や人々の意識や態度が変わっていけば、不便や困難な状況が軽減できることに気付かせ、大会をきっかけに広がった共生社会を目指す動きを止めず、さらに進めていくことが東京 2020 パラリンピックのレガシーの 1 つであることを伝えたい。
- ・児童が、「みんな」や「自分以外の人」のことを考えるだけでなく、自分自身も共生社会をつくり出す一員だと認識できる場にしたい。

5. 準備物

- ・授業用シート（東京 2020 スペシャル）
- ・教師用授業ガイド（東京 2020 スペシャル）
- ・児童用ワークシート（東京 2020 スペシャル）
- ・映像資料：選手たちの想い ～スポーツ以上の役割をもつパラリンピック～



〈展開案〉※【 】内は経過時間

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
導入 (5分) 【5分】	映像を見よう！ ○パラリンピアン映像を見て、パラリンピアン言葉に刺激を受け、パラリンピックについて学びたい気持ちになる。 ・パラリンピアンは、カッコいいな。 ・脚を失ったことが人生最高のできごとだという考え方がすごい。 ・金メダルをとるより大事なことって何？	○導入はクラス状況や既習事項などによって変えてもよい。 ○選手の映像を見せ、児童の感想などを聞きつつ、本時の授業の狙いにつなげる。 ・王者になることより大切なことって何だろう。 ・パラリンピックは、様々な人が活躍できるように工夫された大会だけれど、それ以外にも共生社会をつくるという重要な役割があるんだよ。選手たちのコメントから伝わってきたね。今日はそのパラリンピックのレガシーについて学ぼう。	・授業用シート ・教師用授業ガイド ・映像資料： 選手たちの想い ～スポーツ以上の役割をもつパラリンピック～
展開① (8分) 【13分】	国立競技場を例に、レガシーについて考えよう！ ○レガシーという言葉の意味を理解する。 ○車いすエリアの工夫、補助犬用のトイレなど具体的に知ること、国立競技場が「誰もが気持ちよくスポーツを楽しむために工夫された場所」だと理解する。 ・試合を一人で見るのは楽しくないな。友達や家族とわいわい楽しみたい。 ・前にお父さんがオムツを替える場所がなかったと困っていたことがあったから、こういう施設はいいよね。	○残していきたいレガシーの1つと言われるのは、「誰もがスポーツを楽しめるよう工夫された場所」であるからだと言え、具体的な例を挙げ説明する。 ○教師の一方的な説明にならないように、クイズのように問いかけるなど、できるだけ児童の興味や気付きを引き出しながら説明する。 ○施設や設備が整ったことは画期的なことであるが、障害のない人にとって当たり前のことが、障害のある人にもやっとなことになったということであり、基本的な人権を尊重する環境がようやく整えられたということを押さえない。 ・「あなたは○○だから、別の席で見てください」と言われ、一人でスポーツ観戦をしなければならないことになったらどう感じるかな？	・授業用シート ・教師用授業ガイド

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
展開② (5分) 【18分】	国立競技場の工夫は、どのように考えられたの？ ○国立競技場が、様々な人々の意見を聞きながら、何度も話し合いを重ね、修正しながら完成したことを知る。	○誰もが気持ちよく過ごせる場所にするために、設計の段階から、国立競技場を使う異なる立場の人の様々な意見が取り入れられたこと、意見が違っても何度も話し合うことで少しでも良いものをつくろうとしていることを理解させる。普段の学級活動と比較するなどして理解させてもよい。 ・21回の話し合いをして、85個も改善点を見つけて直したんだって。	・授業用シート ・教師用授業ガイド
展開③ (19分) 【37分】 1つめのワークまで 4分 2つめのワーク 10分 発表 5分	施設や設備などの工夫はいかされているかな？ ○点字ブロックの例の不適切な点を共有する。 ○エレベーターの2つの例での、自分のとるべき行動について考え、共有する。 ・お父さんと一緒に降りて、若い男の人に声をかけるよ。 ・ぼくの家族全員降りて次を待つよ。	○点字ブロックの例を見せ、設備があっても使うべき人が使えていないことがあることに気付かせる。 ○ワーク①は状況説明の場とし、時間はかけすぎない。ワーク②を考え、共有し合う時間を多く取る。 ○どのように行動するか、誰にどんな声かけをすればいいかを具体的に考えさせる。 ○クラスの状態に合わせて、ワークシートへの記入は宿題としてもよい。 ○様々な人々のことを考え、課題を解決しようというアイデアを出し合ったことを大いに認める。	・授業用シート ・教師用授業ガイド ・児童用ワークシート
まとめ (8分) 【45分】 記入 4分 発表・まとめ 4分	今日の授業を振り返ろう！ ○今日心に残ったことをまとめて共有する。 ・気付かないうちに、点字ブロックの近くに自転車を停めていないかなど、普段の生活でも注意したい。 ・選べるということが大切だと思った。	○クラスの状態に合わせて、振り返る内容を指定してよい。 ○最後のまとめとして、レガシーについて考えたことを大いに認め、子どもたち自身も共生社会をつくり出す一員であり、それもレガシーであると認識できる場にする。 ・君たちにもできることがある。君たちがレガシーを未来に受け継いでいくんだね！	・授業用シート ・教師用授業ガイド ・児童用ワークシート